

園だより



駿河台大学第一幼稚園
2月

2月、節分・立春を迎え暦の上では春になります。暖かい春をめざして、園庭の水仙やチューリップ、アネモネ、ラナンキュラス、フリージアなど、少しずつ変化が見られます。種から育てた葉ボタンや小松菜も菜の花になるのが楽しみです。

さて、幼稚園の今年度は、30日余りとなりました。この最終の時期は短くても、各学年の子どもたちにとって、さらに充実して成長が目に見えるときになります。まだまだたくさんの取組が待っています。

子どもたちは、この寒さの中でも園庭で活発に遊んでいます。ボール遊びだけをとっても、サッカー、新しいバスケットゴールへのシュート遊び、ドッジボールなど多様な遊び方を楽しんでいます。リトルハウスでは、ままごと道具を使うようにしたことで、使われないエリアだったのが楽しい遊び場になっています。今後、子どもたちが座っておしゃべりしたり、リトルハウスで遊ぶ人とかかわったりできるように縁台を増やす予定です。また、ブランコの場所は少し難しいゆらゆら揺れるロープにして、腕の力で登る遊具に変えています。今の時期にしかできない園庭の環境を工夫しているところです。

また、数年に一度ずつ行いたいと考えている園庭固定遊具の総点検を専門業者を通して行いました。その結果を受けて、駿河台ランドの綱ロープ・キャップの新調、クジラの滑り台の鉄部分のステンレス化などを進めています。

より安全に楽しく遊べる環境にしていきます。

さて、作品展に向けて全園児が取り組んでいます。共通の取組として紙版画を体験しました。年少児は様々にカットした空き箱の紙を組み合わせ、年中児は2色の色の混ざり具合を自分で考え、年長児は4色の組み合わせとハサミで考えた形にカットしたり異素材を使ったりと自分の工夫を形にしました。今年も、職員作品に取り組む子どもたちと同じ紙版画で渾身の龍を制作しました。子ども達みんなが、今年度ラストスパート！？を、元気で楽しめますように、龍も応援しています。

